



A Happy New Year 2020!

まちライブラリーは本で人とつながる私設図書館活動です。2011年のスタート以来、全国で750カ所に広がっています。主宰するのはもちろん、近くのまちライブラリーを訪ねたり、本を寄贈したり、さまざまな仕方で誰でも気軽に参加することができます。皆さんの地域の居場所としてどうぞご利用ください。

まちライブラリーHP machi-library.org/



まちライブラリー第1号のISまちライブラリー

EVENT

イベントのお知らせ

大阪 天満橋

1/24金 2/21金 沖縄の水上家から来た本の会@ISまちライブラリー

ISまちライブラリー 19:00～21:00

開設時からのサポーター、郷 慎九朗さんが企画。彼は2013年から4年間沖縄に住み、まちライブラリー@水上家を運営。再度の転勤で関西に戻ってこられました。ゲストは神戸・岡本にある沖縄の本と工芸の店「まめ書房」店主、金澤さん。参加者が紹介するどんな本でも、必ず沖縄ネタにして金澤さんがコメントします！淡々と言葉を重ねてくれる中に、沖縄への深い愛情が感じられます。もちろん、沖縄好きでなくても楽しめますよ。お気軽にご参加ください。



水上家から来た本の会@ISまちライブラリー

磯井純充講演会予定

1/18(土)13:00～14:30 長野県茅野市 ワークラボハケ岳

茅野駅直結、ベルビア2階にあるワークラボハケ岳は、誰もが気軽に利用できるコワーキングスペース。まちライブラリーは長野県内で4カ所に広がっています。まちライブラリーのはじめかたや楽しみかたをお話します。

1/26(日)14:00～17:00(予定) 北海道函館市 函館コミュニティプラザ(Gスクエア)

北海道道南地区の図書館関係者、一般の市民の方を対象に、まちライブラリーの現状と展望についてお話をします。その後、会場のGスクエア館長の仙谷智義さんがGスクエアの本棚の現状と期待(仮題)でお話をされた後、「まちとつながるGスクエアの本棚をつくろう!」というテーマでワークショップをします。

2/16(日)午後(予定) 静岡県焼津市(会場未定)

静岡県焼津市の「焼津駅前通り商店街」の空き店舗を活用して、「本」と「学び」でゆるやかにまちを繋ぐ「みんなの図書館」が進んでいます。すでにクラウドファンディングで80万円に上るお金が集まり徐々に準備が整っているようです。こちらでもまちライブラリーの説明と展望についてお話をします。詳細は未定ですが、フェイスブック等でお知らせします。

その他のお知らせ

・まちライブラリーブックフェスタ2020 in 関西 4/19(日)～5/17(日)

関西では、毎年春に約1か月間、まちライブラリーブックフェスタを催してきました。これは、まちライブラリー関係者と有志が中心となって、公共図書館や博物館、書店、まちライブラリーなど、本にまつわる約300ヶ所をつなぎ、本と人であうお祭りです。11月28日には、39名の有志による意見交換会を開催して、6回目となる2020年の実施にむけて準備をはじめました。

気になっているが行きかけがないライブラリーを訪ねてみたい、個人のライブラリーでイベントはめったにできないけれど、この期間中はがんばって企画してみたりと、利用者もライブラリー運営者も少しだけ背伸びができます。本だけでなく、おすすめ本などを紹介する人とその想いに出会える1か月。老若男女、だれでも気軽に参加できるのは本があるからこそかもしれません。今年の春は、おすすめ本を1冊持って、関西に集合!

※詳しい情報は、まちライブラリーHPでどうぞ machi-library.org/

・第8回マイクロ・ライブラリーサミット発表者募集中!

5/10(日)大阪府立大学I-siteなんばにて開催予定

マイクロ・ライブラリーサミットは、全国各地の個人や小規模団体が運営している小さな図書館(マイクロ・ライブラリー)の集いです。ライブラリーの紹介や事例発表を通じて、想いを共有したり、新たな活動のヒントを得たり、課題克服を目指す場です。ただ今、発表者を募集しています。発表してみたい方は、サミット事務局のISまちライブラリーまでお気軽にお問い合わせください。06-6809-3152(火～金10:00～18:00)



意見交換会(11/28まちライブラリー@もりのみやキューズモール)



第7回マイクロ・ライブラリーサミット(2019/5/19)



懇親会

エッセイ

2020年 年の初めに思うこと

あ けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

平成から令和元年となった2019年は、まちライブラリーにも新しい動きのあった1年でした。企業や行政が運営に関わる活動としては、9月に東大阪市文化創造館、11月には南町田グランベリーパークに、まちライブラリーが誕生しました。まちライブラリー@東大阪市文化会館は大阪地区では4つ目の大型のまちライブラリーとなり、まちライブラリー@南町田グランベリーパークは東京地区では初の大型のまちライブラリーの誕生となりました。どちらも従来どおり利用者の皆さんからの寄贈本で本棚を育てるライブラリーです。皆さんの一冊一冊がそのライブラリーの顔です。本を貸し借りしながら地域の人と交流する場になっていくことを願っています。

また、昨年7月にはアンケートを実施しました。まちライブラリーがどんなふうに使われているのか、その現状を把握するためでもあります。私が大阪府立大学大学院で4年間取り組んできた、場づくりとしてのまちライブラリーの研究に伴う調査でもありました。利用者の皆さんへのアンケートは北海道、東京、大阪、宮崎の13カ所のまちライブラリーを対象に行いました。ご協力くださった皆さん、ありがとうございます。

した。

それによると、利用者の男女比率は13カ所全体では、男性34.9%、女性65.1%となっており、もりのみやキューズモールのような商業施設では女性が70%を超える一方で、大阪府立大学のまちライブラリーでは男性が約75%でした。運営時間、利用目的、設置場所によって違いが大きいことがわかりました。また、利用者の年齢は全体では9歳以下から80代以上まで幅広く分布しており、30代・40代が中心ながら、設置された場所の特性によって、大きく差があることもわかりました。

まちライブラリーの雰囲気について90%を超える人が肯定的に捉えていることもわかりました。利用目的は、カフェ、本の閲覧、貸出を挙げられる人が多く、本の存在が利用動機になっているようです。利用してよかった点については、「一人でゆったりする」、「読書」など居心地のよさを挙げる人が多くみられました。一方で人とのつながりを感じる時については「まちライブラリースタッフとの会話」が一番に挙げられており、個人的な目的を達する場でありながらも、特定の人とのつながりを求めて利用している場になっているようです。

私の個人的な活動としてスタートしたまちライブラリーですが、全国で約750カ所に広がっ

てきており、運営者へのアンケートからは、さまざまな人がそれぞれの思いをもって運営していることがわかりました。本を通して人が交流するまちライブラリーは、ちょっとしたスペースや小さな集まりとして個人でも始められる活動であり、また、企業や行政が運営に関わっている規模の大きなライブラリーでも、本を寄贈したりイベントを行ったりして、利用者が参加しながらその場所を育てていく、その過程を大切にしている活動です。ひとつとして同じライブラリーはなく、運営者、利用者、場所、運営方法などに応じてそれぞれのペースや形で運営し、活動することができるのです。そのことから、私はまちライブラリーが地域の土壌づくりと言えるのではないかと考えています。

最後に、2020年に挑戦したいことをふたつあ

げたいと思います。ひとつ目は、各地のまちライブラリーを訪ねて、それぞれのまちライブラリーがどのように場になっているのか実際に見てお話をうかがうこと、ふたつ目は、研究の成果とこれまでの道のりを振り返り、拙著『まちライブラリーのつくりかた』のその後ともいえるような、まちライブラリーについての本の準備に取り掛かることです。その結果はまた一年後に報告しましょう。

今年もまちライブラリーを通して皆さんと出会える一年となりますように。

2020年1月

まちライブラリー提唱者 磯井純充



まちライブラリー@RAFIQ(OSAKAなんみんハウス)(2019/5/20)



KOREAN BOOK CAFE ちえっちゃんり(2019/5/21)